

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	演劇	種目	人形劇
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	ゆうげんがいしゃげきだんぷーく		
	制作団体名	有限会社劇団プーク		
	代表者職・氏名	代表取締役 石田 伸子	団体ウェブサイトURL	
			https://www.puk.jp	
	制作団体所在地	〒 151-0053	最寄駅(バス停)	JR 新宿駅 南口歩7分
		東京都渋谷区代々木2-12-3		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	にんぎょうげきだんぷーく		
	公演団体名	人形劇団プーク		
	代表者職・氏名	代表 栗原 弘昌	団体ウェブサイトURL	
			https://www.puk.jp	
	公演団体所在地	〒 151-0053	最寄駅(バス停)	JR 新宿駅 南口歩7分
		東京都渋谷区代々木2-12-3		
	制作団体 設立年月	昭和4年12月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		代表取締役 石田 伸子 柴崎 喜彦・西本 勝毅・市橋 亜矢子 佐久間 弥生・亀井 佑子	団体構成員38名	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	石田 伸子
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	中山 正子
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		puppet@puk.jp		0333703371

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	昭和4年創立、昨年95周年を迎えた。日本最古で今なお活動が続ける現代プロ人形劇専門劇団である。新宿に人形劇専門劇場「ブーク人形劇場」を有し、これは昭和46年建設、来年誕生55周年を迎える。この劇場を拠点に全国で公演を行う。 小学 校、幼・保こども園、児童館、図書館、公民館、文化ホールなど、多岐にわたる会場に合わせた作品で年間約600回の公演を行っている。海外人形劇の招聘・交流も積極的に行っており好評を博し、招聘作品の全国ツアーは年々拡大している。国際人形劇フェスティバル大会には、近年では、平成20年豪州大会、平成24年中国大会に招かれ、大いに評判をよんだ公演を行った。平成30年よりブルガリアソフィア人形劇場と共同制作、「カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語」を日本・ブルガリア両国で上演。また令和6年にはチェコアルファ劇場と共同制作、「チャスラフスカ 東京 1964」を日本・チェコ等欧州公演を行い、国際的異文化交流を深めた。 主な受賞歴／昭和56年 怪談嘶「牡丹燈籠」芸術祭大賞、平成5年「あやとじろきちおおかみ」中央児童福祉審議会児童福祉文化賞、平成18年「くまの子ウーフ」厚生労働省社会保障審議会特別推薦児童福祉文化財、平成21年倉林誠一郎記念賞・団体賞、平成24年第52回久留島武彦文化賞・団体賞、令和4年岩手県花巻市創設「第32回イーハトーブ賞」他を受賞。	
	学校等における公演実績	昭和34年より学校公演実績あり 累計 約3500公演 令和6年「てぶくろを買いに／くるみ割り人形」 茨城県内2ヶ所(つくば市学校公演事業) 令和4年「わにがまちにやってきた／ピーターとおおかみ」 東京都内6ヶ所(東京都教育庁子どもを笑顔にするプロジェクト) 令和2年「八郎／にんぎょう祭りばやし」 鹿児島県内3ヶ所((公社)日本児童青少年演劇協会鹿児島県市町村による青少年劇場) 令和1年「八郎／にんぎょう祭りばやし」 全国8ヶ所((公社)日本児童青少年演劇協会 宮城県巡回小劇場他) 平成30年「1ばつ9のごうけつハンス／しちめんちようおばさんのこどもたち」 鳥取県内4ヶ所((公社)日本児童青少年演劇協会 鳥取県巡回小劇場) 平成29年「ピンクのドラゴン」 全国3ヶ所((公社)日本児童青少年演劇協会 鳥取県巡回小劇場) 平成27年「あやとじろきちおおかみ／タマゴ」 全国9ヶ所((公社)日本児童青少年演劇協会 長野県巡回小劇場)	
	特別支援学校等における公演実績	令和7年「プー吉・チビのムジカブラボー／りんごかもしれない」幡代小学校幡代学級 令和4年「てぶくろを買いに／くるみ割り人形」茨城大学教育学部附属特別支援学校 令和元年「がんばれローラーくん／プー吉・チビのオープニングショー」八王子特別支援学校 令和元年「12の月のたき火」くわな特別支援学校 平成29年「12の月のたき火」相馬養護学校 平成25年「ちいさなトムトム／人形日本風土紀」特別養護学校ひまわり学園 平成25年「ちいさなトムトム／人形日本風土紀」拓北養護学校 平成24年「ねぎぼうずのあさたろう／ピーターとオオカミ」平野特別支援学校 平成22年「三びきのやぎのがらがらどん／ぼちぼちいこか」愛媛大学教育学部附属特別支援学校 平成20年「てぶくろを買いに／くるみ割り人形」北海道教育大学附属特別支援学校 平成20年「てぶくろを買いに／くるみ割り人形」青山養護学校 平成16年「三びきのやぎのがらがらどん／ぼちぼちいこか」県立内原特別支援学級 など他多数	

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/Ml8Nrl8twlk	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添	なし
----	----

【公演団体名 人形劇団ブーク 】

本公演・ワークショップの内容

対象	小学生(低学年)		○	小学生(中学年)		○
	小学生(高学年)		○	中学生		○
企画名	『三びきのやぎのがらがらどん～北欧民話より～』『ぼちぼちいこか』					
企画のねらい	「知恵と勇気で大きな困難を乗り越える」というテーマの普遍性から、共感をよび続けている「がらがらどん」。失敗にめげずに、やり直すエネルギーをユーモアを交え伝える「ぼちぼちいこか」。いつの時代にも共通するテーマを持つ2作品に出会うことで、仲間や思いやり、協力する事、くじけない前向きな心の大切さに気づくことでしよう。物語を彩る美しい自然風景の描写、楽しくまた劇的に盛り上げる音楽、踊り、生楽器の演奏。これらは人形が主役である人形劇を、芸術として更に深く印象的に心に刻みこむ欠かせない要素です。子どもたちが豊かな感性を育むべく、物語をとおして、自分をみつめ、夢や憧れが目標となり、生きる希望へと繋がってもらいたいと思います。					
演目概要・演目選択理由	「三びきのやぎのがらがらどん」 けわしい山にかこまれた、はるか昔の北欧の地、三匹の兄弟やぎがおりました、名前はそろってがらがらどん。お腹を空かせた三匹はごちそうを求め遠い山へ。そこに行くには、大きな魔物のトロルがいるのです。「ぼちぼちいこか」登場しますは、重量級のカバ君。消防士、船のり、パイロット、バレリーナ…。いろいろ挑戦してみましたが、どれもうまくいきません。なにかとせわしい世の中ですが、ここらでちょつとひとやすみ。まあぼちぼちいこか。30年以上前から愛され続ける二作品には、変わらない魅力が満載です。力を合わせることで一人では成し遂げられない困難も乗り越える、失敗しても諦めない心で挑戦を続ける。人形劇を存分に楽しんで、あと一歩の勇気で広がる素敵な世界に、多くの子ども達が出会って欲しいと強く願います。					
児童・生徒の参加または体験の形態	本公演で上演する劇中に、児童生徒さんが演目にちなんだ役柄の人形をつかって舞台上で登場し、人形劇団ブークの人形・出演者と共演する場面を設けます。共演する児童生徒さんには、各々がつかう人形を自ら創作し、人形の操作、演技方、表現や発声について学び体験してもらう。舞台の成り立ちとして演出、脚本、人形美術、装置、音楽、照明、効果音などが、総合的に折り重なり合って創られる人形劇に興味関心を抱けるよう、さまざまな角度から伝えられるよう工夫する。当日リハーサルは不安を残さず安心して公演に臨めるよう 細やかに行う。学友と劇団員と共に取り組む体験を経て、共に創り上げる喜び・仲間への信頼、一体感を体験する。鑑賞後に希望に応じてミニワークショップを行う。人形や装置のつかいのかた、素材の説明、演じる工夫など、さらなる理解や表現への興味関心を深めることに努める。					
児童・生徒の参加可能人数	本公演			参加・体験人数目安		15名
				鑑賞人数目安		350名
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	「三びきのやぎのがらがらどん」 脚色/中江隆介 潤色・演出プラン/安尾芳明 演出/野田史国希 美術/若林由美子 音楽/堀井勝美 照明/若井道代 音響効果/宮沢緑 振付/丸山はるか 「ぼちぼちいこか」 原作/マイク・セイラー 訳/今江祥智 脚色/生田麻理子 演出/井上幸子 人形美術/川口 新 装置/鈴木英夫 音楽/マリオネット(湯浅 隆・吉田剛士) 照明/阿部千賀子 音響効果/吉川安志					
	公演時間		80	分		
出演者	栗原弘昌 有田智也 滝本妃呂美 亀井佑子 勝二春陽					
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	滝本妃呂美／入団昭和55年所属年数46年。平成12年度東京都優秀児童演劇選定、(社)日本児童演劇協会個人賞。 栗原弘昌／入団昭和63年所属年数38年。平成14年～令和3年有限会社劇団ブーク代表取締役、令和3年～人形劇団ブーク代表。 亀井佑子／入団平成21年所属年数17年。舞台監督担当作品「エルマーとりゅう」「ひとまねアヒル」他。					
本公演従事予定者数(1公演あたり) ※ドライバー等訪問する業者人数含む	出演者:			5	名	
	スタッフ:			2	名	
	合 計:			7	名	
運搬	積載量:			2	t	
	車 長:			5	m	
	台 数:			1	台	

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール)の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間			時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8～11時		13:30～14:50	15分	15時～16:30	17時
	※本公演時間の目安は、概ね2時間分程度です。						
	6月		7月		8月		9月
	10月		11月		12月		1月
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	16日		5日				
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		21日
本公演・ワークショップの内容							
							
							
著作権、上演権等 の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否		該当あり		該当コンテンツ名		音楽 他
	該当事項がある場合	権利者名	堀井 勝美 他		許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名

人形劇団プーク

】

ワークショップの
ねらい

舞台に立ち人形をつかって人前で演じることは、貴重な体験になります。人形劇をするために舞台に立ち表現をする、そのための人形や小道具を自らの手で作るにより、誰のものでもない自分だけの人形への愛着、表現への探究心も高まります。もっと上手に動かしたい、どう工夫したらいいのか。ひとりではなく仲間とともに意見を交わし高め合うこと、などの目標をもって参加することにより、表現することへの意識がさらに高まります。共演を体験することでの達成感、充実感を得ることで、さまざまな学習機会において、積極的意欲的に取り組む姿勢に繋がっていくことでしょう。芸術文化団体と児童生徒さんとの共演により、公演自体の質を高め、児童生徒さん全員の忘れられない鑑賞体験に深まることへ繋がることでしょう。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

60名(1学年程度)

ワークショップ
実施形態及び内容

本公演で共演する児童生徒さんに事前指導を行う。シンプルで舞台効果のたかい「人形」の材料キットを作成し、事前に郵送する。また共演に使用する音源や楽譜も事前に送付し、聞いたり感じたりすることによって、創作意欲や舞台・人形劇への関心、表現することへ積極的に取り組めるよう導きます。当日1コマ目では、劇団の紹介をし、人形劇の説明から人形の製作へと進めていきます。身近な素材を元に、的確な道具を用い、効果的で丁寧な手順を踏むことによって、魅力ある動きが出来る演じる為の人形を創作できます。その発見や喜びを大いに感じ、創り上げられるよう、的確に指導説明助言に努めます。2コマ目では、実際に体育館の舞台で動きながら、共演する場面の練習をします。舞台用語の説明などしながら、表現することへの興味関心、楽しさを導きます。人形のつかい方、魅力的な表現方法、つかう人自身の身体の動かし方、発声のポイント、協調した動き方などを、一場面ずつ丁寧に、覚えて高められるよう導きます。

その他ワークショップに
関する特記事項等

特別支援学校等での実施に際しては、さまざまな状況に応じて柔軟に対応する。人形製作の工程の簡略化なども、事前作業を劇団員があらかじめ準備する等、工夫をする。共演場面もアレンジをするなど、先生方とも相談をしながら、達成感充実感を得られるよう、状況に応じて行う。触れる機会の少ない、実際に舞台でつかっている人形や小道具に触れてもらうなど、質感手触りも楽しんだり、人形劇団ならではの交流・体験は大に行う。

ワーク
ショ
ップ
の
内
容

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 人形劇団ブーク 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。				
会場の設置階の制限	条件なし		主幹引き込み電源容量		60 A以上
舞台設置面積	間口	9 m	奥行	5 m	
	高さ	3 m			
舞台設置場所	フロア対応	条件が合えば可	学校のステージでの対応	条件が合えば可	
搬入間口の広さ	幅	1 m	高さ	2 m	
遮光の要否	完全暗転必須		緞帳の要否		あれば使用する可能性がある
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定		
			ピアノを使用しない場合の移動の要否		不要
搬入車両(トラック等)の横づけ	横づけ要件なし		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		30 m以内
搬入車両の種類	中型トラック		台数	1 台	
搬入車両の大きさ	車幅	2 m	車長	5 m	
備考					

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	あれば、搬入間口や搬入経路の写真等	

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	45分	当日本公演前	リハーサル	
	ワークショップ					
本公演						

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

会場簡易図面	(任意)	会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。	
		※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。	
	体育館 舞台 パネル 体育館 フロア 鑑賞位置 フロア 使用時	体育館の舞台	舞台袖
		設置舞台	舞台袖
		設置舞台	スペースの確保が必要
		設置舞台	スペースの確保が必要
		鑑賞位置	
		間口	
		後方	
		トラック	
前方			

別添

なし

【公演団体名

人形劇団ブーク

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

本事業の特筆すべき点は、鑑賞のみならず、ワークショップや共演体験を通じ、舞台芸術に触れ、芸術家との交流があることが素晴らしい。共演を体験する児童・生徒は、気持ちを高揚させ生き生きと誇らしげに舞台に立ち、学友の前で伸びやかな表現を果たす。日常の学校生活では、体験することの少ない状況と思えます。この貴重な体験は、自己肯定感や成功体験として、ゆたかに心に深く刻まれることに違いありません。ワークショップでは、児童・生徒のどんな吸収力、探求心、表現力、想像力、仲間を思いやる気持ち、それらが遺憾なく発揮され、短い時間のなかでの成長に、いつも感動させられます。そのような児童・生徒のやる気や可能性を最大限に引き出すために、全力を尽くすことが私たちの役割・使命と思います。舞台共演までの積極的な取り組み、また舞台芸術に触れる、この体験こそが、学びの場での興味関心の広がり、想像力や発想力、ゆたかな心の成長・育成の実現につながると信じて、実施してまいります。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

私たち団体と初めて出会う児童・生徒が、戸惑いや緊張を感じる事のないよう、丁寧に適切にワークショップを進めていきます。そのためには、事前の準備や説明等をご担当の先生と綿密に行い、誰もが安心して意欲的に取り組めるようにします。また、素晴らしい心に残る舞台芸術にふれる体験になるよう、私たちは努力を怠りません。具体的には芸術性のより高い舞台創造を探究し、効果的で魅力あふれるワークショップの内容構成や、興味関心が高く取り組める共演スタイルの工夫など、より有意義な体験事業となるよう、努めてまいります。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

担当者を一名配置し、実施校の校長先生、教頭先生、ご担当者の先生と綿密に連絡を取り合いながら、適切かつ円滑な実施をしていきます。担当者不在時においても、迅速に滞りなく対応出来るよう、進行状況表や対応マニュアルの情報共有を明確にします。電話・FAX・メールなど、多様な方法を用いる場合も、必ず、直接電話で重ねての確認を忘れず行います。初めて実施する実施校には特に丁寧に、詳細の流れや留意点等をお伝えして、一切の不安を取り除き、安心してワークショップ・公演に取り組むことが出来るよう慎重に進めていきます。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

実施校に必ず事前に意向を確認します。音や光が苦手だったり、鑑賞・参加が他の児童・生徒と同じ空間では困難な場合など、様々な状況に応じて、リモートでの鑑賞・参加等、柔軟に対応していきます。より対象者に合わせた内容とすることを、実施校と相談をしながら、状況にそくして、適切に対応します。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

本公演鑑賞後には、継続的な学びとして、鑑賞した感想を聞いたり、質問に答えたりする交流を行います。人形劇の人形は遣いや素材が多種多様なため、児童・生徒からは興味関心の高さから多くの質問が出ます。私たちからは質問以外にも、公演を実施する為の工夫や説明をします。この交流は、本公演鑑賞によって、児童・生徒が、表現することや想像力を膨らませることの楽しさや、心ゆたかな体験を重ねていきたいと心に刻める貴重な学びにつながるよう、実施しています。